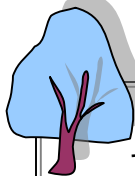


内山ワールドへのお誘い

私たちのつくりだした現代社会が、今日の日本の森を苦境におとしめているのである。この森とともに生きてきた地域社会も、人々の営みも維持できなくさせる現代とは何かを考えながら私は森の未来をみていこうと思う。

著書「森にかよう道 知床から屋久島まで」から



「森林は米のもと」といわれてきた。森が大地も水も田をも養ってきたからである。逆に「田は森のもと」ともいえる。この両者が荒廃している。山の賑わいがきかれなくなって久しいが、『里の在処』にあって、森にかわり、啓蒙、予言し続けてきた内山節さんの危惧が現実のものとなっている。哲学者は予言者でもある、そして氏は大衆の行くべき道をも示唆している。

鎌谷蓮衛 「かわさき自然と共生の会」

内山さんは1年の3分の1を群馬県上野村で暮らしている。山里の生活の日々を淡々と描きながら、その考察を通して都会に生きる私たちが何を失ってしまったのかを問いかける。「不安の時代」に生きる現代人に、生きることの意味にまで迫る問いの深さは鋭いが、しかしまなざしが優しいのが魅力だ。

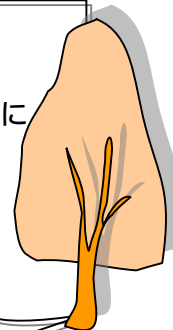
小磯 盟四郎 「川崎まち連」

日本の風土を培ってきた里の人々のくらしと人のつながりが、私たちに里山の自然の恵みをもたらした。

便利な都会生活を享受し、知らぬ間に里山の営みを破壊しながら、時には都合よく里山の保全を口にする、都会人である私たちのくらしの遷り行きが、内山氏のお話の中からきっと培り出されてくることだろう。

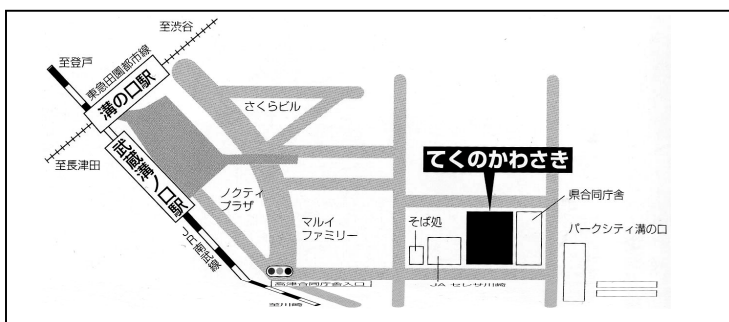
限りある資源をどうやって守り育てていくことができるのか、内山氏の自然への深い洞察から私たちが学ぶことは多いと思う

鈴木婦津美 「地域福祉サービス・ぐみの家」



会場案内図

ノクティ・マルイ裏の駐車場入り口側の通り 高山クリニック前、JA高津と県合同庁舎に挟まれた建物です



連絡先: 酒井 TEL044-931-3280 FAX044-931-3281 (夜間 TEL044-922-0842)